

宇宙人？とお友だち！？ チョビン通信①

「ペットボトルが落ちてた。」

渡邊花穂さんが、不思議なペットボトルを拾い、みんなに見せています。

「何が入っているのかな？」

「水かな？」

「ロケットの絵が描いてあるよ。」

「私にも見せてよ。」

「英語も書いてあるよ。」

「先生、なんて書いてあるの？」



4月の桜の咲いていた頃、年長のすみれ組のみんなが、金谷川小学校北側の山に散歩に出かけた時の出来事です。

子どもたちが言う通り、そのペットボトルには黒いラベルが貼ってありました。そこには、確かにロケットの絵と“water”の文字がかかれています。

「ロケットの絵が描いてあるから、宇宙人が、落としていったものじゃない？」

「先生！これも拾ったよ！」

土屋幸生さんが、光る物(何かのレバーらしき物体)を持ってきました。

「これも、宇宙人が落としたものじゃない？」

「宇宙人が、この辺に来ているのかなあ？」

子どもたちは、想像をどんどん膨らませています。

「宇宙人がここから、私たちのことを見ているのかなあ。」

帰り道、子どもたちは、

「宇宙人は、いるのかなあ。」

「私は、怖いなあ。」

「本当に、宇宙人が水を落としたのかなあ。」

「あの水、飲めるのかなあ。」

など、子どもたちの頭の中は、もう宇宙人のことでいっぱいです。

(幼稚園に戻った後、“あの水飲めるかどうか、園長先生に飲ませてみよう！”という企てもあったみたいです。幸いに、未だ実現はしていません。)

水戸条安さんが、宇宙人(?)にお手紙を書きました。

「みず おとしましたか？」

「ミズ ヒロッタ？ トモダチ ニ ナリタイ チョビン」

返事が返ってきました。

「チョビンて言うんだって。」

「やっぱり、水を落としたんだ。」

「友だちになりたいんだって。」

「うれしい。」



